

TAKAMIZ

高松機械工業株式会社

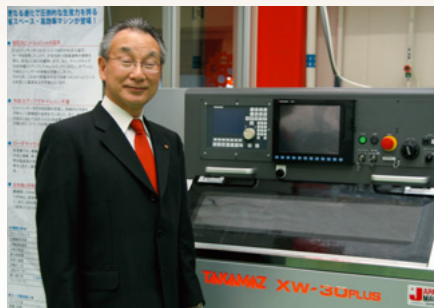
[証券コード6155]

第54期 株主通信

平成26年4月1日から平成27年3月31日



株主の皆様へ



トップに訊く——The President Talks

代表取締役社長

高松 喜与志

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第54期株主通信をお届けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

第54期を振り返りますと、日本経済は、消費税増税による駆け込み需要の反動が長引きましたが、緩やかな景気回復を続けてきました。また、円安や原油価格下落の影響などから企業収益が改善するとともに、各種政策の効果が表れてくることへの期待感が高まりました。

工作機械業界では、需要は1年を通じて好調に推移しました。外需では、北米・ヨーロッパ・アジアの主要3極すべてで過去最高の受注額を記録し、内需でも補助金等の政策が設備投資を後押ししてきたことで、平成26年度の業界受注総額は過去2番目の高水準となる1兆5,786億円(前年同期比31.0%増)となりました。

このように、当社グループを取り巻く環境が良好な中で推移してきた結果、工作機械受注は高水準を維持しました。また、第54期の売上高は180億18百万円となり、第47期に記録した過去最高売上高162億20百万円を大きく上回りました。

第55期の事業環境は、工作機械業界において、海外市場で好調さや回復基調が維持すること、国内市場で景気回復や省エネ補助金等の政策効果が見込まれることから、前年同水準以上の需要が期待されています。

当社グループでも、海外向けの増加に加え、中小ユーザの需要が改善し、堅調な受注が継続していくものと見込んでいますので、更なる業績拡大をはかつて過去最高の売上および利益を目指します。

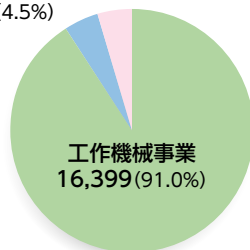
そのため、当社グループの強みである自動化技術を活かし、魅力ある設備・システムの提案と支援を実施し、需要確保をはかっていきます。また、高水準を維持している需要に対し、生産量を増やして適切な納期で製品を提供していくことに努めていきます。

当社グループは、海外市場の拡大を推進していくとともにグローバル化をはかり、これまで取引のなかった地域・分野・産業に対しても、より積極的に営業活動を促進し、強固な経営基盤の確立に努めることで将来にわたって企業成長を続けていく所存でありますので、今後も引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■セグメント別売上高構成比

IT関連製造
装置事業
810 (4.5%)

自動車部品加工事業
808 (4.5%)



(単位: 百万円)



タイ子会社で行われたプライベート・ショー

Q.

第54期の業績結果はいかがでしたか。

A.

工作機械業界では、初めて外需だけで1兆円を
超え、内需も補助金等の政策を背景に順調な回復
を続けるなど、需要動向は非常に良好であり、当社グルー
プの主力である工作機械事業も堅調に推移しました。

この結果、第54期は、売上高180億18百万円(前年同
期比24.1%増)の大幅増収となりました。売上増加にとも
なって利益も大きく増加し、営業利益13億54百万円(同
83.7%増)、経常利益14億59百万円(同61.2%増)、当期
純利益9億36百万円(同114.5%増)となりました。

Q.

この1年間で会社が行ってきた取り組
みをセグメント別に教えてください。

A.

当社グループでは、主に中・小型CNC旋盤の製
造、販売およびサービス・メンテナンスを行っている
「工作機械事業」、半導体や液晶等の製造ラインに使われる
製品のOEM生産を行っている「IT関連製造装置事業」、主

に自社製旋盤を利用して自動車部品等の加工・一部組付を
行っている「自動車部品加工事業」の3つを展開しています。

①工作機械事業

当期は、日系ユーザの進出や経済回復・成長によって需要拡
大が見込まれる海外市場への対応強化をはかり、積極的な営業
活動と迅速なサービス・メンテナンスの提供を推進してきました。

地域別の対応としましては、アジアでは、中国、タイおよび
インドネシアにある各子会社が多くのディーラやユーザを招
待したプライベート・ショーを開催し、TAKAMAZブランドの
浸透と評価向上をはかってきました。

アメリカでは、自動車関連産業を中心に好調な市場にて
積極的なユーザ訪問と提案型営業を実施してきたほか、
工作機械需要が高まっているメキシコでは、販路拡大とタイ
ムリーな情報収集を推進してきました。

ヨーロッパでは、需要の回復に対応して展示会などで新製
品や技術をアピールし、引合・受注の確保に努めてきました。

国内では、大手ユーザの海外設備投資案件に対して国内外拠
点の情報共有をはかり、ユーザに適切な対応をとってきました。

国内市場においても、設備投資意欲が回復してきた中小
ユーザに対して最適な加工方法と自動化ラインや新製品を



新しくなったショールーム



平成27年3月に導入したマシニングセンタ

積極的に提案することで、老朽化した設備の更新需要を喚起し、受注獲得をはかってきました。

また、好調な受注に対応して、組立ラインの見直しや設計・加工等の効果的な外注活用など、生産の最適化および効率化による増産にも取り組んできました。平成26年11月には精密加工室とショールームの移設・拡張工事が完了し、また、マシニングセンタ等を新規導入しました。

その結果、受注高が145億59百万円(前年同期比4.1%増)、受注残高が70億29百万円(同2.4%増)、売上高が163億99百万円(同27.5%増)、営業利益が13億76百万円(同99.3%増)の増収増益となりました。売上高は内外需ともに前年同期を上回っていますが、国内中小ユーザの設備投資が改善したことで、外需比率が45.0%(前年同期は50.3%)となりました。

②IT関連製造装置事業

当期は、売上高確保をはかるための積極的な営業活動による幅広い情報収集と新規市場開拓を継続して推進してきました。しかし、当初見込まれていた需要回復時期が期待より遅れたことで、需要は低水準で推移してきましたが、年度後半の大型受注によって売上高は前年並みとなりました。

その結果、売上高が8億10百万円(前年同期比3.3%減)、営業

損失が4百万円(前年同期は3百万円の営業利益)となりました。

③自動車部品加工事業

当期は、設備投資や増員等によって生産体制を強化しましたが、主要取引先からの受注が当初見通しよりも下回って推移したことで、売上高は前年並みにとどまりました。このような状況の中で今後の売上増加をはかるため、積極的な営業活動による新規受注の獲得および新規取引先の開拓を推進してきました。

その結果、売上高が8億8百万円(前年同期比1.3%減)、営業損失が17百万円(前年同期は44百万円の営業利益)となりました。

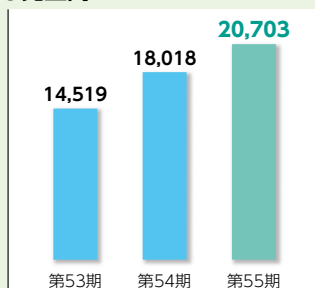
また、平成27年2月20日にタイ国内で自動車部品加工を行う現地法人を設立し、自動車部品加工事業初の海外展開を行いました。

Q. 第55期の展望はいかがですか。

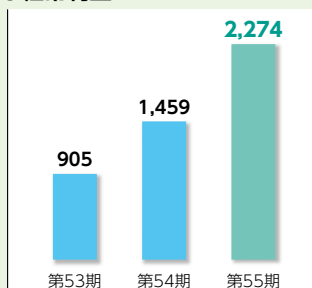
A. 日本経済は、円安や原油安、政策による経済の好循環の中で、企業収益の改善基調が持続し、個人消費や輸出も持ち直すことによって、緩やかな回復を継続すると見込まれています。

■第55期の連結業績見込み（単位:百万円）

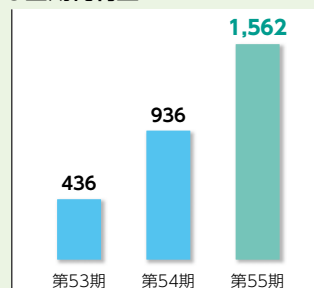
●売上高



●経常利益



●当期純利益



工作機械業界は、新興国の成長鈍化などの懸念材料がありつつも、海外市場、国内市場ともに需要拡大が見込まれています。日本工作機械工業会では、前年以上の水準を期待しつつ、平成27年暦年業界受注総額見込を1兆5,500億円としています。

当社グループでは、第54期末の時点で生産高の半年分近い受注残高があり、また、大手ユーザの海外設備投資や、補助金等によって後押しされる中小ユーザの設備投資などの良好な事業環境を背景に、更なる業績拡大を見込んでいます。

第55期の業績予想は、売上高が207億3百万円、営業利益が21億89百万円、経常利益が22億74百万円、当期純利益が15億62百万円と、第54期より更に改善する見通しです。

Q. 計画達成に向けて、課題となることはなんですか。

A. 工作機械事業におきましては、高水準を維持して、いる需要に対し、生産量を増やして適切な納期で製品を提供していくことが課題であります。

そこで増産を実現するため、多様化するユーザの要求に柔軟な対応を可能とする生産ラインを整備し、工程間のムラ・ム

ダを低減させていくとともに、適切な進捗管理、設備機械の効率的活用、教育による社員の多能工化、サプライヤーとの連携強化を進めることで生産性を向上させていきます。また、ユーザニーズに応えるための個別設計時間の短縮にモジュール化やユニットの共通化を検討・実施していくほか、高水準の品質保証体制によって完成度の高い製品を提供していきます。

海外設備投資案件に対しては、国内外拠点の情報共有とグループ会社間の連携強化によってユーザに適切な対応をとるとともに、特に重要性の高まる地域に対してグローバルサービス体制を強化していきます。

国内では、補助金等の効果から中小ユーザの設備投資意欲が改善していますので、魅力ある設備・システムの提案と支援を実施し、需要確保に努めていきます。

IT関連製造装置事業および自動車部品加工事業におきましては、売上高確保と利益改善が課題であります。

そこでIT関連製造装置事業では、既存および新規顧客への継続的・積極的な営業活動の実施によって情報の早期入手に努め、安定的な受注獲得をはかっていきます。営業活動の結果、新規装置の引合を受けていますので、受注につなげるべくニーズ対応していきます。また、リードタイム短縮や製造原価



合併先であるP.QUALITY MACHINE PARTS CO.,LTD.の
パタナサック社長(右)と高松社長(左)



合併先であるP.QUALITY MACHINE PARTS CO.,LTD.の
工場内で使われている当社製品

低減に努めて粗利益管理を徹底していきます。

自動車部品加工事業では、近年求められている多品種少量生産への対応や将来的な事業規模拡大のため、適切な生産体制の構築をはかり、加工ラインの新設・改造や増員のほか、工場の新築も含めて検討を進めていきます。また、顧客満足度の高い製品の提供と、サイクルタイム短縮による原価低減を推進していきます。

Q. タイに新設した会社について教えてください。

A. 自動車生産工場の海外移転によって部品の現地調達が進む中、当社も自動車部品加工事業の海外展開を検討してきました。このたび、現地で部品製造を行っている日系企業から現地での加工引合を受けたことから、将来性や採算性等を検討した結果、海外での生産実績は今後の事業展開に大きなアドバンテージとなることから、タイに自動車部品加工事業の合併会社を設立することを決定しました。

新設した現地法人の名称は「TP MACHINE PARTS CO., LTD.」であり、当社の工作機械ユーザでもあるタイ企業「P.QUALITY MACHINE PARTS CO., LTD.」との合

弁会社です。資本金は3,000万バーツ(日本円で約1億円)、当社の出資比率は74.9%です。

工場は平成27年5月から稼働しており、当社社員1名、現地採用社員9名の体制でスタートしました。今後は早期安定稼働に努めていくとともに、3年以内の黒字化を目指します。

Q. 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A. 第55期は、過去最高となった前期の業績を上回ることを見込んでいますので、中間配当6円、期末配当12円の年間18円とし、前期に比べて3円の増配を予定しています。

また、当社は製造業であることから設備投資等を目的とした内部留保を行っていきます。特に、近年の好調な受注環境に対応していくためには、より大きな設備投資も必要になっていきますので、中長期的な視野に立った生産拡大戦略の検討および実施に取り組んでいきます。

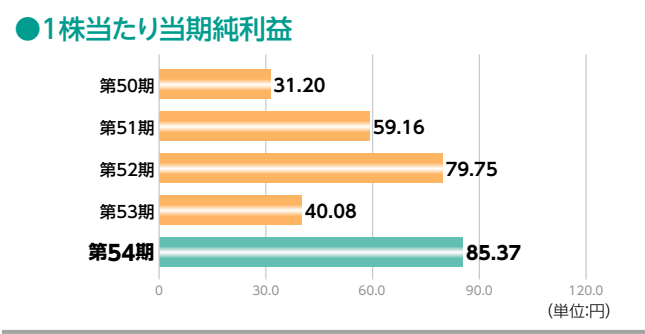
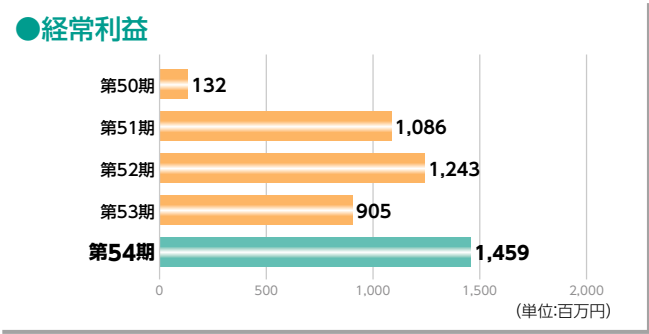
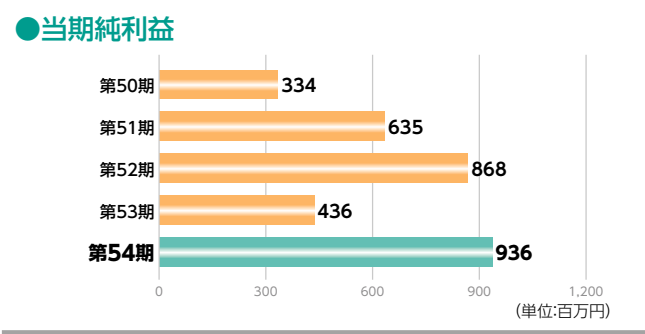
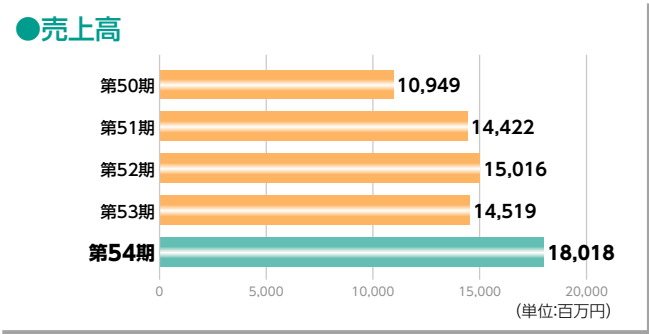
株主の皆様のご期待に添えるような会社であるべく今後も精進してまいりますので、当社を末長くご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

業績の推移

連結業績ハイライト

科 目		第50期 (平成22年度)	第51期 (平成23年度)	第52期 (平成24年度)	第53期 (平成25年度)	第54期 (平成26年度)
売上高	(百万円)	10,949	14,422	15,016	14,519	18,018
営業利益	(百万円)	83	988	1,079	737	1,354
経常利益	(百万円)	132	1,086	1,243	905	1,459
当期純利益	(百万円)	334	635	868	436	936
純資産額	(百万円)	8,129	8,739	9,560	10,241	11,303
総資産額	(百万円)	14,343	15,791	16,499	17,845	19,574
1株当たり当期純利益	(円)	31.20	59.16	79.75	40.08	85.37
1株当たり純資産額	(円)	752.50	799.32	876.40	937.99	1,026.89

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



連結財務諸表

連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	11,758	13,172
現金及び預金	3,700	3,875
受取手形及び売掛金	5,366	6,289
商品及び製品	414	468
仕掛品	959	1,231
原材料及び貯蔵品	811	945
繰延税金資産	278	299
その他	232	76
貸倒引当金	△ 5	△ 12
固定資産	6,087	6,401
有形固定資産	4,524	4,717
建物及び構築物	1,496	1,520
機械装置及び運搬具	600	759
工具、器具及び備品	113	123
土地	2,287	2,287
リース資産	26	19
建設仮勘定	1	7
無形固定資産	204	158
リース資産	202	156
電話加入権	1	1
投資その他の資産	1,359	1,525
投資有価証券	1,173	1,340
保険積立金	146	149
その他	39	70
貸倒引当金	△ 1	△ 34
資産合計	17,845	19,574

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	5,696	6,559
支払手形及び買掛金	3,650	4,183
短期借入金	948	948
リース債務	55	55
未払法人税等	261	338
賞与引当金	174	185
役員賞与引当金	31	37
製品保証引当金	29	55
その他	545	755
固定負債	1,907	1,710
長期借入金	949	731
リース債務	158	103
役員退職慰労引当金	326	370
退職給付に係る負債	379	392
繰延税金負債	92	112
その他	0	0
負債合計	7,604	8,270
(純資産の部)		
株主資本	9,779	10,521
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,822	1,818
利益剰余金	6,166	6,879
自己株式	△ 45	△ 11
その他の包括利益累計額	453	765
その他有価証券評価差額金	129	175
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	253	450
退職給付に係る調整累計額	71	140
新株予約権	6	－
少数株主持分	2	16
純資産合計	10,241	11,303
負債純資産合計	17,845	19,574

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)		
科 目	前連結会計年度 (自 平成25年4月 1 日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月 1 日 至 平成27年3月31日)
売上高	14,519	18,018
売上原価	11,039	13,549
売上総利益	3,480	4,469
販売費及び一般管理費	2,742	3,114
営業利益	737	1,354
営業外収益	186	126
営業外費用	18	21
経常利益	905	1,459
特別利益	2	4
特別損失	40	0
税金等調整前当期純利益	867	1,464
法人税、住民税及び事業税	381	510
法人税等調整額	49	16
少数株主損益調整前当期純利益	437	937
少数株主利益	0	0
当期純利益	436	936

(注) 各計算書において、記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

(単位:百万円)		
科 目	前連結会計年度 (自 平成25年4月 1 日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月 1 日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	437	937
その他の包括利益	289	312
その他有価証券評価差額金	79	46
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 0
為替換算調整勘定	81	119
退職給付に係る調整額	－	69
持分法適用会社に対する持分相当額	129	76
包括利益	726	1,249
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	726	1,248
少数株主に係る包括利益	0	0

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)		
科 目	前連結会計年度 (自 平成25年4月 1 日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月 1 日 至 平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,007	625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 794	△ 411
財務活動によるキャッシュ・フロー	252	△ 356
現金及び現金同等物に係る換算差額	70	62
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	535	△ 79
現金及び現金同等物の期首残高	1,906	2,442
現金及び現金同等物の期末残高	2,442	2,362

トピックス

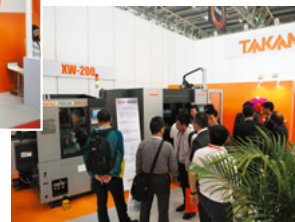
展示会に出展しました

CIMT2015(中国)

平成27年4月、北京で開催された中国国際工作機械展示会「CIMT2015」に出展しました。

今年で開催14回目となったCIMTは、来場者が20万人を超えるアジアでも大きな展示会です。

人件費の高騰により自動化の要求が高くなってきている中国では、TAKAMAZの得意分野である“自動化の技術”に注目が集まり、当社ブースは多くのお客様でにぎわい、当社の技術力を大いにアピールすることができました。



INDUSTRIE LYON 2015(フランス)

平成27年4月、リヨンにて開催された「INDUSTRIE LYON 2015」に出展しました。

INDUSTRIE LYONはフランス国内で最大規模の展示会であり、世界各国から主要なメーカーが集結します。

自動車・航空機産業が盛んなフランス市場への売り込みを行うべく、当社は高速ロードを搭載した「XW-30PLUS」や、切削能力が高い「XL-150」を出展し、熱心なPRを行いました。

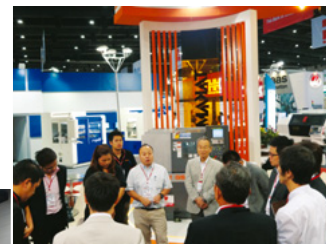
METALEX2014(タイ)

平成26年11月、バンコクで開催されたASEAN最大の金属加工・工作機械見本市「METALEX2014」に出展しました。

来場者は約8万人にもものぼる大規模な展示会で、当社ブースにも多くのお客様が足を運んでくれました。

今回は、当社の主力製品「XC-100」をはじめ、低価格の「GSL-15」、女性も操作しやすい「GSL-10」を出展しました。

日本ではほぼ全てが自動化されたCNC旋盤なのに対し、タイでは2割とまだまだ自動化は主流でないため、アジア向けの操作が簡単な製品に人気が集まり、多くの受注をいただくことができました。



タイに合併会社を設立

平成27年2月、当社ユーザでもあるP.QUALITY MACHINE PARTS CO., LTD.との合併会社「TP MACHINE PARTS CO., LTD.」をタイに設立し、現地での自動車部品加工事業をスタートしました。

自動車部品加工事業の海外進出は初の試みであり、TAKAMAZの技術力をアピールする絶好のチャンスとなります。

平成27年5月より、工場での生産を開始しました。

今後は、更なる事業展開の拡大に力を注いでいきます。



いしかわエコデザイン賞受賞

環境保全に役立つ製品やサービスを開発した企業に贈られる「いしかわエコデザイン賞」の授賞式が平成27年1月に石川県庁で開催され、当社のスリム旋盤シリーズが製品大賞を受賞しました。

なかでも、横幅48cmのスリムボディと大幅な消費電力削減を実現した「USL-480」に注目が集まり、TAKAMAZの技術力が高く評価されました。



USL-480

ツエーゲン金沢 オフィシャルパートナー契約

平成25年のJリーグ加盟後J3初代王者となり、わずか1年でJ2に昇格した石川県のサッカーチーム「ツエーゲン金沢」のオフィシャルパートナーになりました。

チーム設立10周年を迎え、北陸新幹線の開業とともにますます飛躍する石川県のチームを応援していきます。



マスコットキャラクター
ゲンゾー

職場紹介 =海外編= (PTタカマツインドネシア)



PTタカマツインドネシア(以下、PTTIといいます)は、インドネシアの首都・ジャカルタよりおよそ20kmほど離れたところにあるプカシという街にあります。

インドネシアは赤道直下の熱帯性気候であるため、乾季と雨季の2つの季節に分かれます。5月～10月の乾季は温度があまり高くなく、比較的過ごしやすいのですが、11月～4月の雨季には湿度がぐんと高くなり、夕方になるとスコールのような大雨がよくみられます。

また、インドネシアは約2億3千万人という世界で第4位の人口を誇り、イスラム教人口が世界最多であることでも有名です。プカシは工場に勤務する人々のベッドタウンにもなっており、夕方近くになると多くの人々で溢れるとてもにぎやかな街です。



PTTIメンバーは、当社の社員2名と現地採用の社員5名の合計7名で、当社製品の販売からアフターサービスまで全ての業務を担当しており、営業マン一人ひとりが豊富な知識を武器にして、インドネシア全域を飛び回っています。

平成25年に現地法人を開設し、翌年4月に開催したプライベート・ショーでは多くの現地ユーザを招き、TAKAMAZブランドの技術力を披露しました。

近年、インドネシアでは最低賃金の上昇率が非常に高く、多くの企業が頭を悩ませています。

「人件費削減のために、“自動化された機械”が欲しい！」

今まさに、当社が得意とするTAKAMAZブランドの技術力を発揮するチャンスなのです。

しかし、インドネシアではTAKAMAZブランドの知名度はまだ高くありません。そこで、一人でも多くのお客様にTAKAMAZブランドを知っていただき、当社自慢の自動化システムを活用していただくために、PTTIは展示会への出展や積極的な営業活動に取り組んでいます。

「日本と変わらぬ提案・アフターサービスで、お客様一人ひとりに満足してもらいたい」

メンバー全員の強い想いで、PTTIの未来を輝かせます。

株式の状況 (平成27年3月31日現在)

株式の状況

①発行可能株式総数……………

②発行済株式総数……………

③1単元の株式数……………

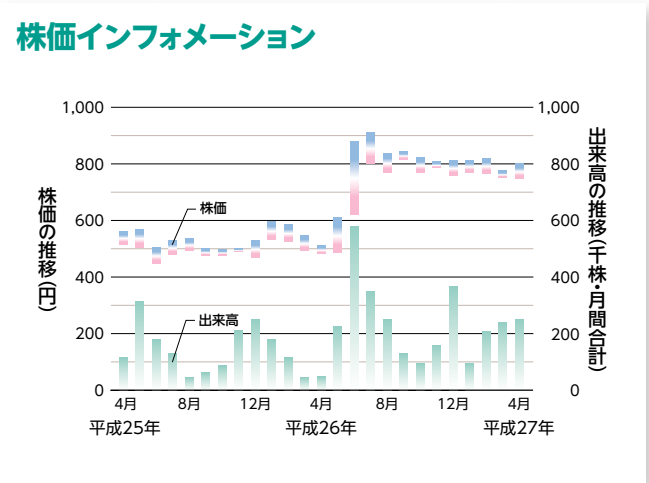
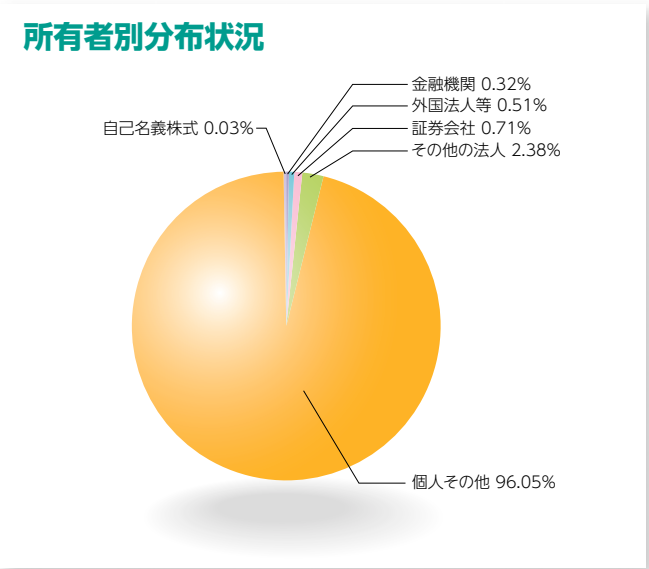
④株主数……………

30,000,000 株

11,020,000 株

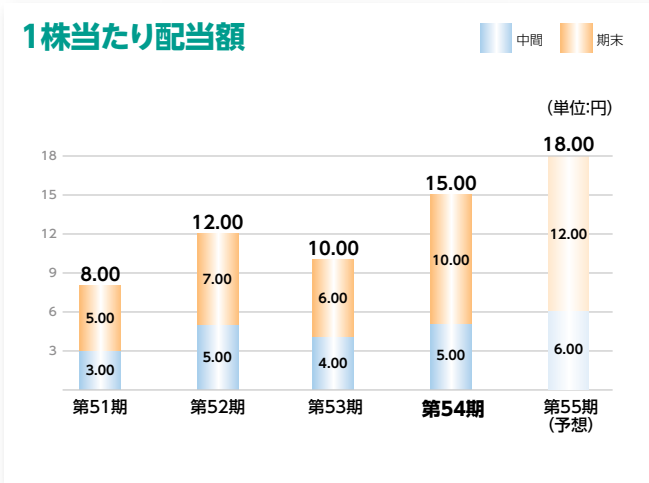
100 株

3,111 名



大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	843	7.65
株式会社タカマツ	810	7.35
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	405	3.68
日本生命保険相互会社	384	3.48
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
高松機械工業社員持株会	349	3.18
株式会社朝日電機製作所	340	3.09
三井住友海上火災保険株式会社	333	3.02



会社の概要 (平成27年3月31日現在)

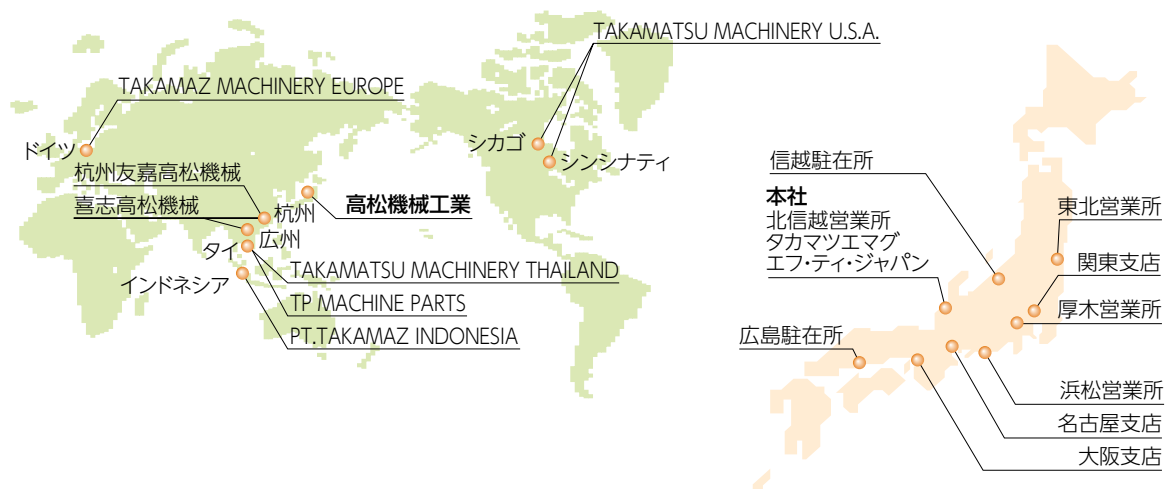
会社概要

商号 高松機械工業株式会社
 設立 昭和36年7月
 資本金 18億3,539万円
 本社 石川県白山市旭丘1丁目8番地
 従業員数 449名
 子会社および関連会社 TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC.
 TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD.
 TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH
 喜志高松機械(杭州)有限公司
 PT.TAKAMAZ INDONESIA
 TP MACHINE PARTS CO., LTD.
 株式会社タカマツエマグ
 杭州友嘉高松機械有限公司
 株式会社エフ・ティ・ジャパン
 ホームページアドレス <http://www.takamaz.co.jp>

役員

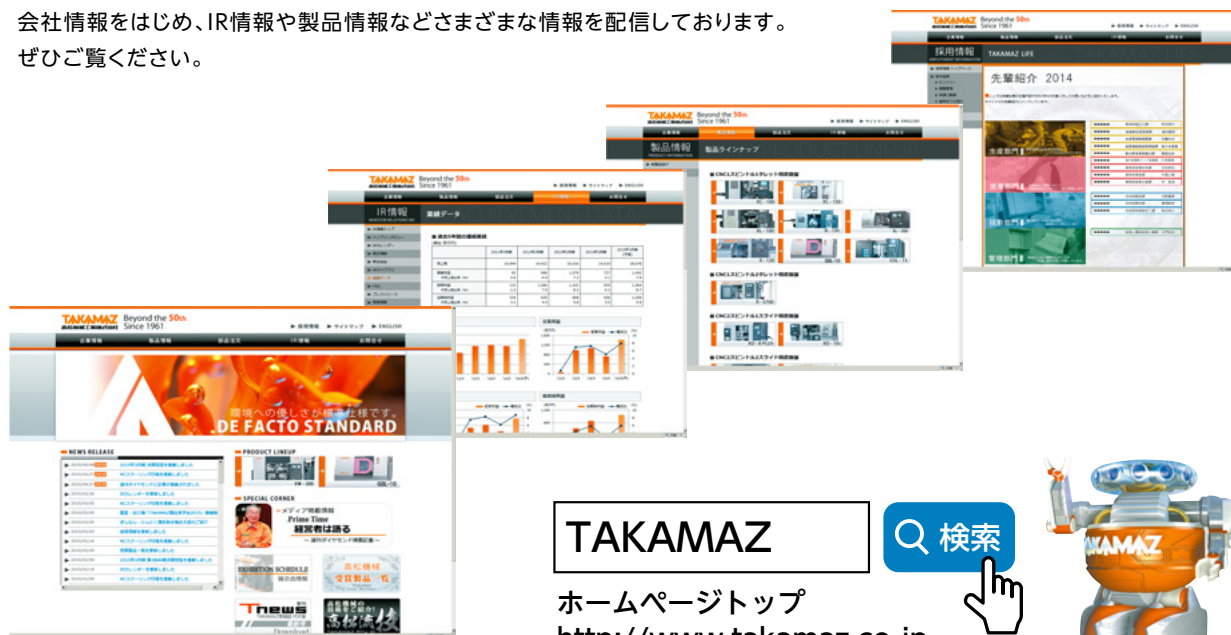
代表取締役社長	高松 喜与志
代表取締役副社長	高松 宗一郎
専務取締役	前田 充夫
専務取締役	中西 与平
常務取締役	溝口 清
取締役	宮川 隆
取締役	徳野 穰
取締役	中川 進
取締役	磯部 稔
取締役(社外)	中西 祐一
常勤監査役	池上 佳信
監査役(社外)	鍛冶 敏弘
監査役(社外)	杖村 修司

ネットワークとサービス体制



ホームページのご案内

当社のホームページでは、株主の皆様により当社をご理解いただくために
会社情報をはじめ、IR情報や製品情報などさまざまな情報を配信しております。
ぜひご覧ください。



TAKAMAZ

ホームページトップ
<http://www.takamaz.co.jp>

🔍 検索



事業所



本社工場(工作機械事業)



本社工場 航空写真



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介



NEW XW-60

XWシリーズに待望の6インチクラスが新たに登場！
内部構造の配置を見直し、更に省スペースになりました。
加工能力の向上、サイクルタイム短縮を追求し、高生産性を実現します。



NEW XW-130M

多くのお客様からのご要望により、XW-130に複合加工機能を追加搭載。
複数の機械で行っていた作業をこの1台で行うことができ、更なる生産効率の向上に貢献します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<http://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1410(直通)
FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。



TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

ホームページ <http://www.takamaz.co.jp>

280
UD FONT

このパンフレットは再生紙を使用しています。

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

